

平成 26 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	「格差センシティブな人間発達科学の創成」に関する教育事業
取組代表者名 担当者名	代表者：菅原ますみ 担当者：浜野隆、大森美香、坂元章、榊原洋一、平岡公一、三輪建二、 米田俊彦、坂本佳鶴恵、大森正博、篁倫子 非常勤講師：王 傑、松本聡子、瀧田修一、原 葉子、室橋弘人、 河田敦子、猪股富美子

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

1. 授業実施

グローバルCOE期間中の教育と研究の成果を学生に還元するための授業を通年でおこなった。“社会的格差と人間発達”をテーマとし、前期科目として“子どもの発達にみる格差：地域・学校・家庭”（全15回）、後期科目として“ジェンダーをめぐる格差の形成と構造”（全15回）を、学部学生を対象として実施し、1年生から4年生まで前期34名・後期58名の履修者を得た。授業参加者は、昨年度同様、授業テーマに関して大きな関心を示し、非常に積極的に授業に取り組んでいる。人間の発達過程における社会的格差の問題に対してセンシティブな視点を有する学生の育成に資することができたものと思われる。

【開講時間】水曜日7～8限（通年）

【教室】共通講義棟2号館102室（通年）

【履修実績】

●前期

『格差社会の人間発達科学論A：子どもの発達にみる格差：地域・学校・家庭』

<履修者数>

①格差社会の人間発達科学論A～1名

②教育科学特殊講義I～12名

③社会意識論～21名

計34名（1年3名、2年18名、3年8名、4年5名）

<講義内容>

日程	講 義 内 容	担当教員
4/16	1. ガイダンス	講師全員
4/23	2. 青少年有害情報対策から読み解く「子どもとメディア」	猪股富美子
4/30	3. 開発途上国の子どもたちの養育環境とQOL	瀧田修一
5/14	4. 子どもの健康とメディアリテラシー	猪股富美子
5/21	5. 日本の子どもの養育環境とQOL	菅原ますみ
5/28	6. GCOE 学校調査に見る中高生の格差(I)：統計的に差を捉えるとはどういうことか	室橋弘人
6/4	7. GCOE 学校調査に見る中高生の格差(II)：個人差と学校間差を分離する	室橋弘人
6/11	8. GCOE 学校調査に見る中高生の格差(III)：QOLの時系列的な変化の差を捉える	室橋弘人
6/18	9. 養育環境における格差と子どもの発達	松本聡子
6/25	10. 養育環境の心理学的検討：環境心理学の視点から	松本聡子
7/2	11. ネット社会におけるいじめ予防対策の現状と教育的介入の課題	猪股富美子
7/9	12. 進路選択と格差の形成	王 傑

7/16	13. 学部生の進路選択ーキャリア指導の役割を考える	王 傑
7/23	14. 15 公開シンポジウム「世界の子ども・子育て格差」（基調講演者：浜野隆先生）	講師全員

●後期

『格差社会の人間発達科学論B～ジェンダーをめぐる格差の形成と構造』

<履修者数>

①格差社会の人間発達科学論B～4名

②教育科学特殊講義I～9名

③現代生活論～45名

計58名（1年16名、2年25名、3年11名、4年6名）

<講義内容>

日程	内容	担当教員
10/8	1. ガイダンス	講師全員
10/15	2. 日本の近代化とジェンダー	河田敦子
10/22	3. 近世女性の日記にみる人間観・ジェンダー観	河田敦子
10/29	4. 近代日本の権力構造とジェンダー～公と私の関係をめぐって	河田敦子
11/12	5. 子育てをめぐるジェンダーの問題	菅原ますみ
11/19	6. 職業生活と家庭生活： 養育者をとりまく環境	松本聡子
11/26	7. 教育機会とジェンダー～中国教育の発展と現状から	王 傑
12/3	8. 途上国における女子教育	瀧田修一
12/10	9. ジェンダー・開発・エンパワーメント	瀧田修一
12/17	10. ジェンダーと経済学	瀧田修一
12/24	11. 女性のライフコースと貧困	原 葉子
1/7	12. 年金制度とジェンダー	原 葉子
1/14	13. 社会保障のありかた：国際比較と今後の展望	原 葉子
1/21	14. 15. 公開シンポジウム「ワークライフバランスの日米比較」（基調講演者：永瀬伸子先生）	講師全員

2. 国内シンポジウム開催

上記1の前期・後期授業の一環として、社会的格差と人間発達との関連性に関する国内外の調査研究の発信を目的とするシンポジウムを企画・実施した。いずれも学内公開で、授業担当講師および受講生をまじえての活発な議論が行われた。

<学内公開シンポジウム>

●前期シンポジウム 『世界の子ども・子育て格差』

【日時】平成26年7月23日（水）15:00～16:30 ※前期授業の一環として実施。

【場所】お茶の水女子大学共通講義棟2号館102号室

【基調講演者】浜野 隆先生（人間文化創成科学研究科准教授）※開催当時の職名

【その他登壇者】菅原ますみ、前期担当講師

●後期シンポジウム『ワークライフバランスの日米比較』

【日時】平成27年1月21日（水）15:00～16:30

【場所】お茶の水女子大学共通講義棟2号館102号室

【基調講演者】永瀬 伸子先生（人間文化創成科学研究科教授）

【その他登壇者】菅原ますみ、後期担当講師

## 2. 今後の取組み継続に係る実施体制及び資金確保の状況について

本経費は、学外の競争的資金等によるプロジェクトで、プロジェクト実施期間終了後も引き続き取組みを継続するための体制を整備するために配分されたものです。本経費の支援期間終了後の実施体制及び資金確保の状況について記述してください。

本事業は H26 年度をもって終了するが、H27 年度は、GCOE 後継事業として「人間発達科学専攻 研究発表支援事業（代表者：米田俊彦）」が採択されている。

3 年間取り組んできた「格差センシティブな人間発達科学の創成」に関する教育事業は、本学が「人間発達科学」の国際的教育研究拠点であるという評価を維持するため、事業期間終了後も、学生への成果還元と学内外・国内外の関係者間の連携関係を維持発展させるとともに、社会的格差と人間発達との関連に関する高度な研究成果の国内外への発信をすすめる予定である。そのために、H27 年度は「人間発達科学研究所（旧人間発達教育研究センター）」の予算を活用し、「人間発達科学」に関する以下のような教育的取組みを計画している。

### 1. 事業名

「H27 年度 格差の視点から見た生涯発達研究・教育事業」

### 2. 事業計画

#### ①シンポジウム/フォーラムの開催

タイトル：「ライフコースと住宅～社会的格差の視点から～」

日程：2016 年 3 月上旬

登壇者：基調講演（外部より招聘、1 名）、話題提供者（外部より招聘 1 名、学内教育/ 研究員 2～3 名）

対象：学内教員、研究員、学部学生、院生、卒業生

\*平成 28 年度は「子どもと貧困」をテーマにしたシンポジウム/フォーラムを開催予定

#### ②研究会/ワークショップの開催

①のシンポジウム/フォーラムの開催を見据えた研究会・ワークショップの開催。

日程：前期・後期各 1 回

登壇者/講師：ゲストスピーカー、あるいは学内研究員

#### ③インタビュー・ヒアリング

①のシンポジウム/フォーラムの開催を見据えた、専門家へのインタビュー・ヒアリングを実施する。

### 3. 使用予算：人間発達科学研究所 部門別調査研究費（研究所第 1 回運営会議で承認）

費 目	金 額
1. シンポジウム/フォーラム 講師謝金	30,000 円×2 名=60,000 円
2. シンポジウム/フォーラム 開催関連費用 (ポスター・配布資料印刷など)	10,000 円
3. 研修会/ワークショップ 講師謝金 (専門的知識の提供など)	50,000 円
4. 旅費 (インタビュー/ヒアリング)	50,000 円
5. コピー代・書籍代	30,000 円
合 計	200,000 円